

琉球大学学術リポジトリ

台湾の農業事情 (下の2)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 真保, Arakaki, Shinpo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20710

台湾の農業事情 (下の2)

(5) 大豆：台湾に於ける大豆は戦前は局地的に在来種が作られて微々たるものであり、経済作物でなかったが戦後特に最近では新興の経済作物として注目されてきた。戦後各地区の試験研究機関で外国より導入した優良品種が200余種で適応試験や育成の過程を経て多くの優良品種が作り出されている。現在奨励品種となっているのが三国、百美豆、十石、和歌島、愛家豆、多生豆の6品種である。尚ほ其の外に台中の中興大学に於ては国内外から約1,200品種を蒐めて適応と生態の試験を実施し以上の外に用途別良品種を育成している。上記品種の内三石、十石、和歌島は日本より導入馴化された品種であり、百美豆、愛家豆、多生豆は米国より導入し馴化選抜された品種である。台湾に於ても味噌、醤油、豆腐等は庶民料理によく用いられるし、又食油源として及び地力の維持増進のために重要作物である。戦後特に最近では生産が急増し戦前に比べると700倍以上の生産高となっている。年3回作られる。即ち台中の例をいうと春2月、夏7月上旬～8月中旬、秋9月下旬～10月上旬であり、屏東地区には在来系統より育成されたもので11月頃迄栽培可能な品種もある。

(6) 茶：台湾の茶は戦前から烏龍茶（香花で着香しない）、包種茶（香花で着香する）として特に沖繩には馴染みが深い。以上の外近年は紅茶の生産が伸びて来ている。何れも醗酵茶であり、緑茶の生産は微々たるもので問題にならない。茶の主産地は日月潭を中心とする台湾の中央部、台湾で海岸線を持たない唯一の県南投県であり本県で全島の7割以上が生産されている。同県には丁度中央部にダム又は観光地として余りにも有名な日月潭（水面の高さ海拔700米、蕃社が近くあって遊覧船で廻遊でき蕃社の娘達の円舞も見られる）があり、その近くに省農試の分所一魚池茶業試験分所がある。試験圃場は標高850米の場所において涼しい場所だった。南投県の茶産地は標高600～1,000米の地帯でPHが5～5.5の排水の良い高冷地帯である。茶には収穫期から見て春茶、夏茶、秋茶の別があり、

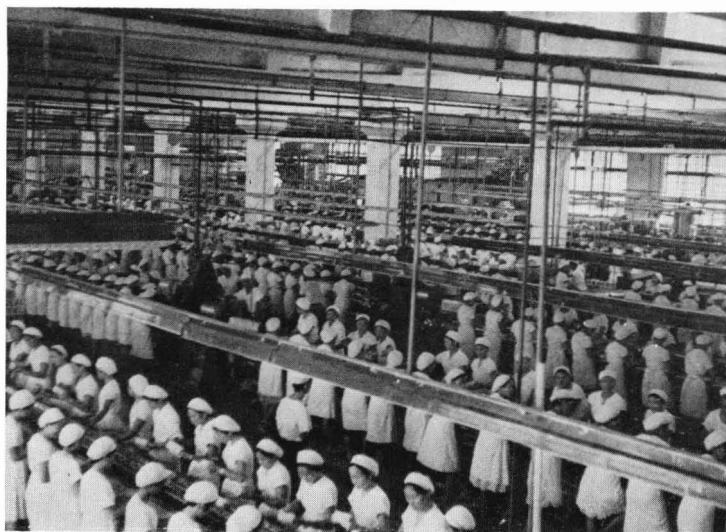
製品にして春茶は外観良く、夏茶は滋味と香気に富み、秋茶は香しいとのことだった。年間摘葉回数普通12回であるが肥培管理を良くすれば15～16回はとれる由。収量比は年間全収量を100%とすれば春夏は夫々40%、秋20%の割らしく、年間全収量生葉でha当4,000kgとれるらしい。製茶歩留りはその $\frac{1}{4}$ 即ち生葉の25%が製茶重量になる。魚池の試験所に於ては外国から色々な品種を取寄せて主として紅茶の試験をしているがアッサム種とキンモン種との交雑種が最も成績が良いというていた。引続き高台上の紅茶の製茶工場を操業中の所を見学した。紅茶を試飲させて頂いたが色も香も見事だった。高台上からは南投県の茶畑が遥か遠くまで見渡された。序でに包種茶に着香するために用いられる香花類一やえくちなし、茉莉花、秀英花、樹蘭花等の香花の大産地は台北市郊外淡水河沿岸のようだがそこは土質が良く、摘花女が多く、且つ台北の包種茶工場（再製工場）に近いのだらうと思われる。工場は香花を民間から買入れて使用している。

茶の生産も戦前よりいくらか殖えている。全輸出品中で4.15%を占めバナナに次いでいる。

(7) パイナップル：沖繩と関係の深いパイナップルのことにふれてみよう。台湾のパイナップルの主産地は南部地方であり、高雄県、屏東県、台東県で多く目についた。嘉義と鳳山の園芸試験所で色々な試験がなされていた。嘉義試験所47ha、鳳山試験所70ha位、共に大面積である。勿論パイナップルだけでなくパパイヤ、ブント類、サボジラ、リュウガン、レイシ、マンゴー、アボガド等その他大抵の熱帯果樹類の試験が行われている。パイナップルの品種はシンガポールとスモースカイエンから育成された台農4号が最も良いというていた。民間では殆んど山の中腹や傾斜地に作られていた。台東では操業中の台糖公司パイナップル工場を見たが東洋一を誇る大工場で従業員700名、臨時雇員4,000名とのこと。缶詰とジュースを作っておりジャムは作ってなかった。第3表で見ると戦前最高に比べ収穫面積は僅かに落ちていますが生産高が23

.5%、ha当収量が約30%伸びている。又第4表と第6表で分る如く缶詰の生産高は戦前最高より67.1%伸びており、又農産関係輸出品では砂糖に次いで第2位であり、全輸出額の5.65%を示している等のことでもパイナップルの重要性が分る。パイナップルの加工販売は甘蔗（砂糖）と同様に台糖公司（半官半民会社）が取扱っている。

（8）其の他の作物 重要作物は以上の外にも数多あるが紙面の都合で詳述できない。先づ第3表でその消長を見てもらいたい。小麦の生産高が戦前の6百倍



台糖公司のパン加工工場（台東）

第4表 農産関係主要工業品の生産高

類別 時期	砂糖 1,000 m.t.	パイナップル 缶詰 1,000%	小麦粉 m.t.	酒とビール hI.	タバコ million pieces	綿糸 俵	綿織物 1,000m.	紙 m.t.	精製油 K.I.
戦前最高	1,374	1,674	8,800	509,597	3,854	2,970	1,682	25,547	11,500
1946	86	200	2,576	191,643	1,641	2,260	2,558	2,952	2,530
1956	767	1,132	159,034	821,953	10,878	134,681	142,426	49,357	856,312
1961	924	2,798	195,407	1,033,672	12,266	268,992	186,545	105,834	1,374,584
比較(%) 1961 戦前最高	-32.8	+67.1	+2,120.5	+102.8	+218.3	+8,957.0	+10,990.7	+314.3	+11,852.9

出所：台湾統計資料書

第5表 台湾の輸出品組成（1962年台湾統計資料書）

類別 年時	金額 (US \$1,000)					百分率 (%)				
	合計	農産物	加工農産物	工業品	その他	合計	農産物	加工農産物	工業品	その他
1950	93,074	6,793	78,966	6,782	533	100.0	7.3	84.8	7.3	0.6
1955	133,441	39,769	83,583	7,276	2,813	100.0	29.8	62.6	5.5	2.1
1960	169,866	19,997	94,873	51,767	3,229	100.0	11.8	55.8	30.5	1.9
1961	214,041	34,533	89,606	85,058	4,844	100.0	16.13	41.86	39.74	2.26

第6表 主要輸出品別金額 (US \$1,000)

年時	合計	砂糖	米	織物	パイナップル 缶詰	茶	バナナ	金属と 機械類	化学 製品	木材との 製品	シトロ ネラ油	石炭	セメントと 建築材料	塩	紙と パルプ	帽子	其の他の 農産物	其の他の
1950	93,074	74,251	2,870	—	116	2,693	1,255	2,297	—	—	1,633	368	27	1,919	—	468	—	5,177
1955	133,441	67,919	32,764	972	5,562	5,594	3,991	2,299	258	806	3,548	631	53	2,077	505	1,692	874	3,891
1960	169,866	74,400	4,320	21,152	8,472	6,347	6,851	6,197	6,760	5,513	3,450	4,118	2,303	2,464	2,512	1,298	3,418	10,291
1961	214,041	61,096	10,080	27,793	12,104	8,889	10,670	12,067	15,762	11,129	3,828	3,890	6,854	2,401	3,694	1,105	3,551	19,128
1961 百分率.%	100.00	28.54	4.71	12.98	5.65	4.15	4.99	5.64	7.36	5.20	1.79	1.82	3.20	1.12	1.73	0.52	1.66	8.94

出所：台湾統計資料書1962

程に増している。サビ病に特に強いW.S.17とかいう品種も米国から導入されていた。小麦は台中29号、同30号の早生系の栽培が多いようだ。綿花の生産高が戦前より86.5%増し尚、工業品関係だが第4表に於て綿糸、綿織物の生産高が夫々9千倍から1万1千倍にも増加していることは台湾が逐年工業化されつつあることを物語る。

バナナは面積も生産も遥かに戦前に及ばず当時の60%位しか生産されてない。大低傾斜地に栽培されている。バナナは全輸出品中で約5%を占め茶よりは大きくパイナップルに次ぎ矢張り特産物として重要性が大きい。黄麻と亜麻の生産も盛んである。何れも水稻裏作に作られる。黄麻は面積は半減しても単収は2倍に殖え戦前の生産を維持している。柑橘類は面積も生産高も約1.5倍に増しているが単収が僅かに落ちているのは樹令の関係か。シトロネラは禾本科の一種の茅でその葉を蒸溜して香油を採取する。香料作物として重要なものの一つで品種により0.4~1.0%位の香油がとれる。香水や石鹼の香料に用いられる。日照と排水の良い肥え地に適し新竹県を主産地とし全島に亘り栽培が盛んである。最近含油率の高い品種が導入された。香油の生産は戦前の530倍。油菜は2期水稻裏作に作られ食油原料、新竹以南嘉義以北が産地、1万ha以上の面積。台中特一号、新竹特一号等早生多収品種がある。タバコも2期水稻裏作に作られ落花生に次ぐ評価である(第2表)。トウモロコシは嘉義市西方朴子に育種場がある。OH43×OH45で台農7号という良品を育成していた。又台南農改所では台南1号、同5号の良品種を育成していた。2期水稻裏作か高地の瘠地に作られる。早生、矮生 耐旱性が育種目標。在来種も多いとのこと。春秋2回作で約4,000ha作られている。序でに緑肥作物のレンゲ(紫雲英)に就いて一言したい。レンゲは元来台湾になく又出来ない作物とされていたのだが、台湾に導入されて50余年でよく馴化し今では1期水稻の裏作として台湾でも良く出来るようになっていいる。元来日本から取寄せたものだが今ではすっかり馴化適応して日本のものとは生態、形態も異ったものになっているとの台中農試で話があった。

(新垣真保)